

子どもの心が育つ 魔法の言葉がけ「ペップトーク」

日本ペップトーク普及協会代表理事

岩崎 由 純



好奇心旺盛な子どもたちは、いろいろとやらかすこともあれば、おかしな（面白い）発言をすることもあります。それを丸ごと受け止めて、励まして、考えさせて、背中を押すことが大事だと言われています。子どものやる気を刺激すれば、自らぐんぐん成長するはず。「やりたい」「やってみたい」を内発的動機づけと言います。そうした子どもの「その気」を引き出す声かけ「ペップトーク」を紹介します。

ペップトークとは、スポーツの試合前に監督やコーチが選手にかける、勇気や元気、やる気を引き出す励ましのショートスピーチ。短く、わかりやすく、ポジティブな言葉がけは、潜在能力を引き出す優れたテクニックとして、教育の現場からも注目されています。

ペップトークは、信頼関係があってこそ、効果を発揮します。ご家庭では、お母さんやお父さん、園では先生方が、お子さんにとって身近なドリムサポーターです。大人のペップトークが、魔法のように子どもの心に響きます！言葉選びを意識して、子どもの内発的な意欲を育み、可能性をぐ～んと伸ばしましょう。

① 存在を認める言葉

「〇〇ちゃんがそばにいてくれて、うれしいな」

ペップトークの基本である存在承認です。そのままのあなたがいい！承認欲求は大人でも持っている本質的なもの。逆に存在を否認されたり無視されたりするのが、子どもには最もつらいと言われています。

② 受容する言葉

「ピーマンは、まだ、苦手なんだね」

マイナスを前向きに捉え直し、ステップを刻んで成長を促しましょう。重要なのは、「まだ」という言葉です。「まだ苦手」という表現には、「今は苦手だけど、いつか食べられるようになる」という語り手の思いが込められています。

③ 素質や才能を信じる言葉

「〇〇ちゃんなら、きっとできると思うよ！」

素質や才能を信じる言葉です。将来の成功を信じてあげる「期待」がピグマリオン効果になります！人は、成功を信じて励まされると、潜在意識がその期待に応えようと反応します。

④ 行動を評価する言葉

「早起きができたね！すごい！」

行動を評価する言葉です。子どもをよく観察して、

ささいなことにもすかさず「認める、ほめる、喜ぶ」の反応を使い分けましょう。昨日より今日、少しでも変化・成長していたら（垂直比較）、それに気づいたことを伝えましょう。子どもはますますその行動を強化していきます。

⑤ 挑戦を評価する言葉

「ひとりでお着替え頑張ったね！」

自ら挑戦する気持ちとプロセスを評価します。たとえボタンを掛け違えていても、「よくやったね！」と、まずは自分でやろうとしたことを受け入れます。たとえうまくいなくても、プロセスを評価することで、やる気につながります。

⑥ 貢献欲を満たす言葉

「手伝ってくれて、ありがとう！」

「ありがとう」と感謝されることは、行動承認です。これは、最もうれしいごほうびです。「自分の行動によって誰かの役にたてた」という満足感は、子どもにとって強い喜びとなります。「ありがとう」は、キング・オブ・ペップトークです。そして「ありがとう」を言われた子は、「ありがとう」を言える子に育つはずです。

⑦ 結果を評価する言葉

「できたね！よかったねー！」

「小さな成功を見逃さず子どもと喜びを分かち合う」これは、「結果承認」です。できなかったことができるようになった時の喜びは、子どもにとって最高のできごとです。それを一緒に喜んで差し上げることは「自己効力感」を育む大きなステップになるはずです。

次号ではスポーツの現場で使われる本格的なペップトークをご紹介します。



プロフィール

岩崎由純（いわさき・よしずみ）

日本体育大学を卒業後、ニューヨーク州にあるシラキューズ大学大学院で修士課程を取得。米国で公認アスレティック・トレーナーとなり、コロラドにある米国オリンピック・トレーニングセンターやNFLのフィラデルフィア・イーグルスなどで研修を積んで帰国。現 NEC レッドロケッツのアスレティック・トレーナーとして 25 年間活動。92 年にはバルセロナ五輪でナショナルチームにも帯同。現在は、スポーツ、ビジネス、そして教育の世界でもペップトークの普及のため年間 240 回を超える講演をしている。

令和 7 年度 地区教研大会概要

関東・神奈川地区 教員研修大会

茨城県・つくば市／8月4日・5日

大会テーマ

「一人ひとりの『こどもがまんなか』をまもる質の高い幼児教育を」

～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～

昨年の栃木大会のテーマを引き継ぎ、8月4日・5日の2日間にわたって、関東地区・神奈川地区教員研修大会が、茨城県つくば市「つくば国際会議場」「ホテルグランド東雲」2会場にて開催いたしました。

「茨城大会開催成功」を意識し、茨城県の魅力を伝えることができるよう、群馬大会・栃木大会に、実行委員として運営の仕方を意識して参加し、バトンをしっかり受け止めながら、学びをさらに深め、幼児教育の質の向上に、実り多い研修会になるように、県私幼の執行部、常任理事、各委員会、そして、事務局の皆様と協力し、アイディアを出し合い準備を進めて参りました。茨城県の魅力を伝えることができた「茨城大会」となり、無事終わったことをうれしく思います。これもひとえに、角谷関東地区会会長をはじめ、各県代表の皆様、そして担当役員皆様の綿密な打ち合わせ、ご指導があったからこそと深く感謝申し上げます。

関東・神奈川地区教員研修大会開催県は、基本8年に一度持回り開催となります。8年前私は、研究委員として参加させていただいておりましたが、今大会では実行委員長として責任ある立場からプレッシャーを感じておりましたが、役員・実行委員・事務局の皆様と一緒にやり遂げることができましたこと深く感謝申し上げます。

今回の大会開催に向けて1,300名を超える皆様をお迎えすることができました。

開会式では、尾上会長、(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の安家理事長、全日本私立幼稚園関東地区会の角谷地区会長の皆様からごあいさついただきました。また、本県飯塚会長の歓迎あいさつ、来賓として出席していただいた大井川茨城県知事・五十嵐つくば市長をはじめ、多くの来賓の皆様から

「幼児教育」に携わる私たちへ心温まるご祝辞をいただきましたことも記憶に残る場面となりました。

基調講演では、東京大学大学院教育研究科教授・前同附属発達保育実践政策学センター長遠藤利彦先生をお招きし「アタッチメントが拓く子どもの未来」－「安心と挑戦の循環」を支え促すことの大切さ－をテーマに、幼児期までの子どもの育ちに係る基本的なビジョンについて、子どもの発達段階により添った、子どもの愛着を重んじ「誕生前から小学校1年生の100か月」心の育ちを促すご講演をいただきました。

また、ウクライナ出身の音楽家、チェロ演奏のグリブ・トルマチョヴさんのチェロコンサートでは、「音楽は、世界をつなぐ言葉」をテーマに、会場いっぱい広がるチェロの音色に癒されるひとときとなりました。

大会2日目は、幼児教育の質の向上を目指し、関東8県が担当する「8つの一般フォーラム」と2つの教養文化講座①科学の街「つくば」サイエンスに親しもう～つくば～②地域文化とアートを活用した幼児教育の新しいアプローチ（美術館と笠間焼き体験）など茨城県が担当する「6つの特別フォーラム」を含む合計14フォーラムは、実り多い学びの機会となったことと存じます。

最後に、関東地区教員研修茨城大会へご参加いただいた先生方、フォーラム関係者の皆様、そして、各県事務局の皆様にご心から感謝申し上げます。関東地区・神奈川地区の先生方とともに「質の高い幼児教育」のために、この絆のバトンを次年度の「埼玉大会」に託したいと思います。ありがとうございました。

((一社)茨城県私立幼稚園・認定こども園連合会副会長・茨城大会実行委員長 榎本恵美子)

大会テーマ

「一人ひとりの『こどもがまんなか』をまもる質の高い幼児教育を」

～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～

8月5日・6日 四国4県から465名が参加し、第39回全日本私立幼稚園連合会四国地区教育研究大会が高知県高知市にて開催されました。ご参加の先生方には、たくさんのご協力をいただき、大会を盛り上げていただきましたことに心よりお礼申し上げます。

前回同様に、県庁前に大会看板を掲げました。ご参会の方々に歓迎の意を表しただけでなく、私立幼稚園自体を社会へアピールできたのではないかと考えています。

開会式では、高知県教育長・高知市長が共にご出席くださり、祝辞をいただくとともに、尾上会長からごあいさつをいただきました。

記念講演は、桂浜水族館 館長 秋澤志名 先生から「ハマスイの奇跡と軌跡～Next Challenge～」と題してご講演いただきました。桂浜水族館の館長としての、深い知識と情熱が伝わってくる内容でした。館長が講演された「奇跡と軌跡」は桂浜水族館の運営にとどまらず、地域の方々や自然活動との共生についても考えさせられるものでした。私たちが日々行っている、保育・教育活動においても、その視点を取り入れて、より良い社会を築くための努力をしていかなければと思いました。その後、以下の6つの分科会に会場を移し、各分科会のテーマに沿った提案発表を、各2園ずつ行いました。第1分科会「愛されて育つ子ども」・第2分科会「子どもや同僚と共に育つ保育者」・第3分科会「幼児教育・保育理論」・第4分科会「子ども理解」・第5分科会「保育の計画と実践・評価・改善」・第6分科会「子どもが育つ家庭や地域」です。発表後、フロアーからの質問を受け、一日目は終了しました。

2日目には各分科会質疑応答や協議の柱の内容で、提案発表を軸にグループ討議を行いました。さ

まざまな意見を交わし合い、同じ問題を共有したり、他園の取り組みを知ることで自分の保育・教育のヒントをもらったりしながら、各グループの意見を取りまとめ、グループ毎に発表する時間を持ちました。その後、助言の先生より総括していただき6つの分科会は終了となりました。

設置者・園長部会は今回2部構成で行いました。1部は「幼稚園・認定こども園をめぐる行政の動向と誰でも通園制度」と題して、こども家庭庁成育局保育政策課 小泉大吾課長補佐から、行政報告が行われました。

こども家庭庁の担当者から直接説明を聞いたことに価値を感じました。説明内容は丁寧でわかりやすく、制度の理念については一定の理解と共感をもつことができました。すべての子供に質の高い幼児教育・保育の機会を保障しようとする方向性には意義を感じますが、一方で、実施に向けては現場の課題が多くあることもわかりました。制度と現実の間に、まだ大きなギャップがあると感じました。

2部は「子ども・子育て支援制度の10年を振り返りこれから望まれるものは・・・」と題して学校法人安本学園 えびーく幼稚園 理事長・園長 安本照正先生から制度の歩みを振り返りながらも過去にとらわれることなく、これからの未来に向けての提言が多角的な視点から語られ、学びの多い時間となりました。

経営についても、理念や地域との関係性といった広い視野で捉える大切さを再認識しました。

(高知県私立幼稚園連合会 副会長、南国市・幼保連携型認定こども園フレンド幼稚園／小松 幸)

大会テーマ

「一人ひとりの『こどもがまんなか』をまもる質の高い幼児教育を」

～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～

8月7日・8日の2日間、福岡国際会議場と福岡サンパレスを会場に九州地区会第41回教師研修大会福岡大会を開催しました。

1日目、全体会のオープニングは2024年全日本高等学校チームダンス選手権大会準優勝の北九州市立高等学校ダンス部の皆さんに、熱気あふれるパフォーマンスで会場を盛り上げていただきました。開会式の後、基調講演ではお二人を講師に迎え、まず「幼児教育の重要性と質の評価について～時代の流れの中で～」の演題で野澤祥子先生（東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター特任教授）に、続いて箕輪潤子先生（武蔵野大学教育学部幼児教育学科教授）に「園の特色と保育実践のつながりを考える～保育の質と保育者の専門性～」の演題でご講演いただきました。野澤先生には世界レベルの広い視点とこれまでの時代背景を踏まえて今後の我が国の幼児教育の方向性をお示しいただき、箕輪先生には保育者一人ひとりの個性と専門性が園の保育を創り、その実践が園の特色になることをご教示いただきました。引き続きのパネルディスカッションでは、阿久根めぐみこども園園長の興水基先生のコーディネートにより、3名の先生方に「園を開く、保育を拓く、学びをひらく～語り合いで作る、わたしたちの園～」のテーマで語っていただきました。「おもしろいを面白がる」をキーワードに、スライドやグラフィックを用いながら、「園の保育を箱から出して見てみましょう。園を開けば何かが入ってきて、違う視点から風が吹いてきます。」「保育を拓くとは、関心を持つ（care）ということです。」「学びをひらき、保育を柔らかく、風通しをよくしていきましょう。」とテーマに沿って展開され、最後は壇上から会場に向かい、参加者がそれぞれに感想を伝え合っている姿をご覧になっ

て、「今、まさに学びがひらかれている状態ですね。」とまとめて下さいました。

2日目は各県の問題提起園の発表による11分科会とフレッシュ研修会、設置者・園長研修会を開催しました。分科会では、「保育実践」「研究者の指導助言」「保育者同志の意見交換」が三位一体となって学びが深まり、保育の質が磨かれていく姿を垣間見た気がしました。また、フレッシュ研修では熊丸みつ子先生のやさしさあふれる語りに励まされ、設置者・園長研修では福岡県立立花高等学校の教育実践と斎藤校長先生の生徒を支える“魔法のこぼれ”に感動し、学びの多い二日間となりました。

今回の大会は、「保育の質」や「保育者の専門性」について学び共に考えたいという思いから、基調講演を二本立てにし、記念講演をパネルディスカッションに代え、テーマのつながりを意識して企画しました。全体会を従来と異なるスタイルにしたことで、「それが裏目に出て参加者が少なかったら…」というプレッシャーも実はあったのですが、結果は目標を大幅に上回る988名の皆様にご参加いただき、盛会のうちに終わることができて正直ほっとしています。九州各県の団体長及び教育研究委員長の皆様のご理解と励まし、また、尾上会長はじめ運営に携わっていただいた実行委員のチームワークに支えられて、「九州はひとつ」を実感する大会となりました。深く感謝いたします。そして何より、各県よりご参加いただいた先生方、さまざまな形でご協力をいただいた関係各位の皆様に心よりお礼申し上げます。来年、長崎でお会いできるのを楽しみにしています。ありがとうございました。

（一般社団法人福岡県私立幼稚園振興協会 教育研究委員長、久留米天使こども園／早川 成）

大会テーマ 「子どもが創る「未来」」

～命と平和を守る被爆80年のヒロシマから～

令和7年中国地区教育研修会は、被爆80周年を迎えた広島の地で開かれました。

年々、戦争や原爆が日本人にとって遠い存在となってきたことに気づかされます。

私たち自身もそうですが、これからたくさんの方を経験し、考え学んでいく多くの子どもたちに、平和というものをどのように感じ考えていってもらいたいと私たちは思うのか、この研修会を通して、1人ひとりの保育者それぞれが、平和について改めて何かを感じ取っていただけることを願い、テーマを設定し企画いたしました。

1日目の記念講演では、広島市出身の松山バレエ団理事長で団長の世界的プリマバレリーナ森下洋子さんに「平和への祈りを舞踏に込めて今思うこと」と題しご登壇いただきました。

1948年生まれの森下さんは、76歳になられる今も現役で舞台に立ち続けておられます。

森下さんの祖母は広島での被爆により左半身を焼かれ、左手は親指しか使えなくなりましたが、使えない指があっても「親指は使える」と、明るく前向きに人生を生きました。その背中を見ながら育った森下さんは、中国5県420名の幼稚園教諭、保育教諭を前に、人間は酷い戦争もするけれど、美しい未来を描く力が魂の底にあり、根源的な輝きがある。一人ひとりが手を取り合うこと、瞬間全てに平和を強く一人ひとりが望むこと、そして勇気をもって行動することが平和につながると語られました。

森下さんが毎日のレッスンを欠かさないことを言われたとき、毎日の本当に小さな積み重ね、日常の何気ない保育者の一言から、子どもたちは平和について考え、そして子どもたちに芽生えたその平和への思いは、つながり広がり、一人ひとりの平和へのアクションへと向かうのだと感じました。

ここで、私たちがこの大会で企画した2つのことをご紹介します。

一つ目は、エリザベト音楽大学付属音楽園 合唱団「プエリ カンタテス」の子どもたちが、平和への思いがこもった歌声を披露してくれたことです。森下さんをはじめ、会場にいる私たちの心を柔らかく感動で包んでくれました。

もう一つは、初日終了間際、会場の大型スクリーンからの映像サプライズでした。

来場された方から説明なしに折り鶴を折ってもらい、それを開会式前に回収し、とある場所へ。そこは、2016年に世界遺産の原爆ドームや平和記念公園のす

ぐ隣に建てられた高さ51.5メートルの「おりづるタワー」。バーや展望台もありますが、平和への願いを込めて折った折り鶴を、ガラス張りの壁面になっている「おりづるの壁」から投入することができ、投げ入れた折り鶴がひらひらときれいに舞い降りていくのを見ることが出来ます。会場から路面電車に乗っておりづるタワーへ、折っていただいたたくさんの折り鶴が舞い落ちる様子、全ての行程を撮影し、結婚式の披露宴であるような、まさに「出来立て」映像をお届けすることができました。

*基調講演

上垣内伸子先生 お茶の水女子大学人間発達教育科学研究科客員研究員

演題「平和の文化を保育室から育てていこう、子どもと共に」

分科会(2日目)

第1分科会 鳥取県

自然の中で子どもが感じる「たのしい」を探る
～本園の園外保育を事例として～

指導助言者 近藤 剛先生(鳥取短期大学教授)

第2分科会 島根県

自然との関わりからいのちのつながりを感じる

指導助言者 井田 昭彦先生(島根県立少年自然の家
スタッフ)

第3分科会 岡山県

ともに育む遊びと学び

～なに?なぜ?ためしてみよう!しらべてみよう!～

指導助言者 山本 房子先生(中国短期大学准教授)

第4分科会 山口県

『生き抜く力を育む 心に響く保育とは ～自分自身を認め、自分を大切にすること～』

指導助言者 重村 美帆先生(宇部フロンティア大学
短期大学部准教授)

第5分科会 広島県

保育における「暗黙のルール」と子どもの声の狭間で

指導助言者 濱田 祥子先生(比治山大学准教授)

第6分科会 設置者・園長・ネクストリーダー

こども誰でも通園制度について

講師 こども家庭庁成育局保育政策課

課長補佐 出口貴史氏

(公益財団法人広島県私立幼稚園連盟副理事長 研究部長 焼山こぼと幼稚園園長/水原紫乃)

移行後の経営の考え方について ～地域に必要とされる園をめざして～

認定こども園委員会

委員 藤城 智哉

時代の変化と園の新たな役割

少子化の進行とともに、子どもを取り巻く環境や家庭の在り方は大きく変わってきました。共働き家庭の増加、地域のつながりの希薄化、子育てに対する不安の高まりなど、保護者のニーズは多様化しています。

こうした社会の変化の中で、幼稚園が新制度の認定こども園へと移行することは、制度の変更というよりも、地域社会の変化に応え、新しい時代の子育て支援を担うための大きな転換点であると感じています。

移行後の園には、教育と保育の両立に加え、地域の子育て家庭への支援、発達支援、学童期へのつながりなど、幅広い役割が求められるようになりました。経営者としては、これまでの教育の枠を超えて、社会の変化を受け止めながら、柔軟に対応していくことが必要だと感じています。

理念を守りながら変化に応じる柔軟な経営

これからの園経営で大切なのは、「法人の理念を大切にしながら、時代に合わせて形を変えていくこと」だと思います。理念を変えるのではなく、理念を生かすために事業の形を進化させていく。その姿勢が、地域に信頼される園づくりにつながると感じています。

また、園が置かれている地域の特性に応じた経営の在り方を考えることも重要です。都市部と過疎地域では、子育て環境や家庭の状況、地域の支援体制が大きく異なります。地域によって、求められる園の機能や役割もさまざまです。自園の地域性をしっかりと見定め、その地域に合った取り組みを選びながら、地域に必要とされる園（法人）になっていくことが大切だと考えています。

多機能・多角化による新たな展開

少子化が進む今、子どもの数だけに頼った経営では持続が難しくなっています。私は、教育・福祉・地域産業などを結びつけながら、法人を多機能・多角的に展開していくことが必要だと感じています。児童発達支援事業や放課後等デイサービス、放課後児童クラブなど、子どもの成長段階に応じた切れ目のない支援を進めていくこと。そして、「こども誰でも通園制度」や、不登校・行き渋りの子どもたちにとっての「居場所づくり」など、社会の変化に応じた柔軟な支援を考えていくことも、これからの園に求められる役割です。園が地域の中の安心できる居場所の一つとして機能できれば、子どもも家庭も地域も、より豊かに支え合えると感じています。

さらに、就労支援や高齢者施設との交流など、地域の幅広い分野と連携することで、子どもだけでなく、家庭・働く世代・地域全体を支える拠点としての役割も果たせるようになるでしょう。食育や農業との連携なども、地域の資源を生かした一つの取り組みの形として、今後の可能性を感じています。

経営者としての思い

こうした多様な取り組みを進めていく上で、何より大切なのは「理念の軸」を失わないことだと思います。職員一人ひとりが理念を共有し、子どもの最善の利益を共に考えながら、日々の教育・保育に取り組むことが、園の信頼と力につながります。経営者として、職員がやりがいを持って働き続けられる環境を整え、挑戦を応援できる園づくりを進めていくことが大切だと感じています。

認定こども園への移行は、終着点ではなく新たなスタートです。地域とともに歩み、教育と福祉の両面から子どもと家庭を支えること。理念を大切にしながら、多機能で持続可能な経営を目指していくこと。それこそが、これからの園経営の使命であり、地域の未来を支える道ではないでしょうか。

令和7年度 秋の叙勲者 【幼稚園・認定こども園関係】

褒章・勲章受章おめでとうございます。

■褒章受章者

藍綬褒章

愛知県 学校法人名古屋旭学園理事長

國府谷俊盛

■叙勲受章者

旭日中綬章

東京都 学校法人二階堂学園理事長

石崎 朔子

東京都 (元) 学校法人武蔵野音楽学園理事長

福井 直敬

瑞宝双光章

岐阜県 合歓の木幼稚園園長

石井 亮一

奈良県 (元) 法隆寺幼稚園園長

上田 英子

福島県 まこと幼稚園園長

楠 洋興

瑞宝単光章

鳥取県 (元) かもめ幼稚園園長

小早川君子

愛知県 ひまわり幼稚園園長

齊藤 路子

※敬称略。主要経歴は受章名簿を参照しております。

クラスや園のみんなで楽しめる

アプリがチャイルドブックから登場！

App Store からダウンロード Google Play で手に入れよう ダウンロード無料

お誕生日会に いっしょによむぞう 生活指導に 絵本の読み聞かせに

いっしょによむぞう サブスクリプション料金

特別価格	1アカウント/月額プラン	5,500円(税込)
	1アカウント/年額プラン	55,000円(税込)

※チャイルドブック担当営業員を介してご購入いただいた場合の価格です。

初回会員登録限定 30日間無料体験実施中！ 対応OS iPad OS 14以降 Android 5.0以降

会員登録した日から30日間無料ですべての機能をご利用いただけます。ぜひ、この機会にお持ちの端末でお試ください。

iPadはこちら Androidはこちら

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL 営業 03-3813-2141 編集 03-3813-3785

チャイルド本社

ニュースのひろば

11月 は「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」期間です。

こども家庭庁から、児童虐待防止への理解と関心を広げ、

子どもを守る社会づくりを進めるための、実施要項が出されましたので、お知らせいたします。

令和7年度「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」実施要綱

1 名称

オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン

2 趣旨

児童相談所の児童虐待相談対応件数は依然として増加傾向にあり、こどもの生命が奪われる重大な事件も後を絶たない。児童虐待の防止は社会全体で取り組むべき重要な課題である。

こども家庭庁では、毎年11月を「秋のこどもまんなか月間」と定め、こども・子育てにやさしい社会づくりのための取組を行っている。その一つとして「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」を実施し、家庭や学校、地域等の社会全般にわたり、児童虐待問題に対する深い関心と理解を得ることができるよう、関係機関・団体等の協力を得て、期間中に児童虐待防止のための広報・啓発活動など種々な取組を集中的に実施するものである。

3 基本方針

- (1) 児童虐待問題への国民の理解の浸透及び児童虐待防止に向けた国民的意識の高揚・定着
- (2) 地域社会に根ざした児童虐待防止に向けた取組の促進
- (3) 児童虐待防止に向けた取組における関係団体、関係機関、地域住民等の連携強化

4 標語

「知らせよう あなたが あの子の声になる」

児玉 香穂さん（千葉県）の作品

※全国から応募された作品の中から、審査を経て決定

5 期間

令和7年11月1日（土）から30日（日）まで

※実情に応じ、期間延長等の変更可。

6 主唱者

こども家庭庁

最先端のAIで変わる、革新的な園運営
様々な書類作成にAIのちからを

保育
月案や日案、お便りに関してのアドバイスをを行います
AIがイラストの作成をします

栄養
アレルギーや献立などのアドバイスをを行います

経営
保護者への対応や経営に関するアドバイスをを行います

会計
仕分け等会計に係るアドバイスをを行います

チャイルド社 出版書籍がAIデータに搭載

園と先生のための
チャイルドAI

株式会社 **チャイルド社** コンピュータ部
〒167-0052 東京都杉並区南荻窪3-31-18
ホームページ: <https://www.child.co.jp/>



～年間連載⑫～

令和7年1月号より、学習院大学文学部教育学科の秋田喜代美教授による年間連載を行っています。「国際的な保育幼児教育の動向」について、SDGsや保育の専門性などにも触れながらの連載となります。乳幼児教育に長年携わっている秋田先生の連載から、幼児教育への理解を深める機会にさせていただきますと幸いです。

こども時間とスロー・ペダゴジー

学習院大学

文学部教育学科教授 秋田喜代美

1. こども時間と大人時間

今回で本連載も最終回となりました。今回は国際的な最新動向ではありませんが、ぜひ皆さんに考えていただきたいこととして、保育における時間の問題を、国際的にも多くの保育研究者にも支持されている「スロー・ペダゴジー」の思想のポイントを国の動向とあわせてお届けしたいと思います。こども家庭庁のウェブサイトで「100か月の育ちビジョン」として5つのビジョンを紹介する動画やリーフレットがあります。その中で「こどもたちの尊厳と権利を守る」を表す動画及びリーフレットとして「こども時間・大人時間」という動画とリーフレットの中での紹介があります。私もその作成に関わらせていただきました。そのリーフレットでは「こどもにはこどもの、大人には大人の時間があります。こどもにとってはあっという間に感じる遊びの時間

も、大人にとっては長い待ち時間になることも。お互いにこの時間の流れの違いから「なんでだろう」という気持ちがすれ違うこともあります。そんな時は一息ついて、「こども時間」をおもいだしてみませんか」という言葉です。これはご家庭の保護者向けですが、研修等であなたのその日の保育で、「こども時間」より「大人時間」を優先したなと思う出来事があれば思い出して共有してみてくださいとお伝えすると、多くの方が思いあたる節があると語ってくださいます。

このこども時間ということ、保育の哲学として問い直しているのが、英国のアリソン・クラーク教授の「スロー・ペダゴジー」の思想です。この思想は『「スロー・ナレッジ」と急かされる子供たち』と題して、英語では2022年に出版されています。この本は、現在筆者も含め、森真理先生や仲間



遊具：HOUSE

未来は、あそびの中に。

偉大なる発明も、世界を変えた公式も、
あそびから生まれた。

あそびは、すべての創造の源です。

あそぶ力を伸ばすことは、未来を切り拓くこと。
創造力をのばす。共感力をはぐくむ。ルールをまなぶ。
あそびから、こどもは無限の力を羽ばたかせていく。

あそびの環境に、あざやかな驚きを。

私たちは、未来をつくる仕事です。



日本語訳刊行準備中のものです。クラーク教授は2年前にも東大 CEDEP でオンライン講演をしてくださっていますので、必要な情報はそのサイトをご覧ください。ここでは、そのエッセンスをご紹介しますと思います。

2. スロー・ペダゴジーの思想

クラーク教授は、スローなことに重きを置くとは、日常的な教育の実践において、スローな生活に重きを置こうとすること、それはすなわち、省察と観察を重視することだとしています。それは現代の「お持ち帰りのペダゴジー」、つまり、「お持ち帰り」でできる、仮想の、グローバル化され、ダウンロード可能で、取り込み版電子ペダゴジーであり、抽象化された、経験の技術や技法を重視する考え方に対して抗するものだとしています。「早く、多く」という思想の背景にあるのは、もっぱら焦りであると述べています。「速すぎるよと叫ぶ子どもたち」に対して、何が大事なのかという問いかけでもあります。これは生成 AI が社会の中に便利という言葉で入り込んできている時代に、改めて考えてみるべきことでしょう。これに対して実体験を優先し、同じ環境をより深く見直す機会を提供したり、感情や感覚に注意を払う時間を確保することの必要性を「場のスロー・ペダゴジー」として、呼んでいます。

そして、次の4点を大事に述べています。第一

に、子どもと「共に」あることを探究することであり、そのために場と時間をかけて育むことです。また第二には、軌道から外れること、脇道にそれることを認めることです。そして第三には、子どもと共に沈潜することです。これは、すべての子どもの学び方、生き方に耳を傾け、尊重することだと彼女は言っています。また、その子どもと対話すること、つまり、その子どもの生きている世界に大人側が参加し、探究し、既存の世界の地平を共に超えていき、子どもと連帯することだとしています。そして第四には、長い目で見ることであり、それによって育んでいくことです。

この4点は保育において、多くの方が大事にしたいことであり、しかし、実際には難しいと感じることでもあるでしょう。でも、すべての場ではなくても、ある場面を見返したり、園で省察や観察をする時に、この思想を思い出して進めてみると、そのための深呼吸をしてみると、語らいも深まるのではないのでしょうか。

1年間執筆の機会をいただき、読んでいただき、また感想を送ってくださった方などの皆様に心から感謝いたします。

参考文献

Alison Clark 2022 Sloe Knowledge and Unhurried Children.

保育と子どものおもしろさを伝え、ワクワクを広げる

みんなでつくる園の未来！

保育ナビ

こども・子育て政策が大きく動く今、持続可能な園づくりの役に立つ、「国の動き」「人材育成」「園経営」「保育内容」「子どもの姿ベースの指導計画」「園の多機能化」など必須の情報をお届けします。

＝ B5判 64ページ 定価 1,200円（本体 1,091円＋税 10%） ＝

保育の楽しさ・魅力を
実践事例で紹介！

国の動きを伝え、
持続可能な
園づくりをサポート

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <https://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育事業部 営業支援チームまで

キンダーブックの **フレーベル館**

「子どもがファースト青森県」

青森県では、「こども・子育て『青森モデル』」を2024年度から2029年度にかけて推進し、2040年を目標に「合計特殊出生率2以上／純移動率の反転」を掲げています。この社会構造的な目標を念頭に、幼児教育・保育の分野においても、地域・家庭・教育機関が一体となった「子どもを軸にした社会づくり」が重点化されています。

幼児教育・保育の「量」から「質」へと政策軸を移し、県では保育・幼児教育関係団体の協力が強化され、保育者の資質向上や施設環境の整備を通じて質的充実に取り組んでいます。これを踏まえてというわけではありませんが、令和6年6月に青森県内の幼保関連5団体、一般社団法人青森県保育連合会、社会福祉法人日本保育協会青森県支部、青森県私立保育協会、NPO法人全国認定こども園協会青森県支部、一般社団法人青森県私立幼稚園連合会が保育・教育のさらなる充実を目指して「青森県保育・教育5団体協議会」を設立しました。施設型・運営体系の垣根を越えて、例えば「施設経営支援」「人材確保・資質向上」「人口減少地域での保育課題」保育の団体と幼児教育の団体がつくる協議会は全国的にもあまり例がありませんが、子どもたちの健やかな成長を第一に考える協議会として連携を深めています。

このように、行政・5団体協議会と協力、連携をしながら、県全体で子育てのしやすい環境、子どもたちが健やかに成長できる環境を整え、「子どもがファースト青森県」と呼ばれるように全力で働いていきたいと思えます。

((一社) 青森県私立幼稚園連合会副会長・振興・経営委員会／つがる市・認定こども園育実幼稚園／平田浩介)

「今こそ、園独自のこだわりを！」

埼玉県は、東京近郊の都市的な地域から、自然豊かな山間部まで、多様な環境を持つ県です。県南部は「埼玉都民」と言われるように、昼間人口と夜間人口の差が最も大きい地域のひとつとされています。私の園があるさいたま市も人口135万人の政令指定都市で、0～14歳の転入超過数は全国1位とされていますが、そのようなさいたま市でも、100園ある幼稚園・認定こども園の在籍園児数は、ここ数年、毎年800人～1,000人ずつ減少しています。つまり、毎年複数園が消滅している計算になるほど厳しい状況が続いているのです。

人口は減少していないのに、幼稚園・認定こども園の園児数が減少しているのには、共働き家庭の増加に伴う保育所志向の高まり、圧倒的な保育所の数等、様々な要因が考えられますが、このような時こそ、「幼稚園・認定こども園の存在意義」や「各園独自の幼児教育に対するこだわり」を改めて見つめ直し、そして、積極的に発信していくべきではないでしょうか。「私の園はこんなこだわりがある！」「私の園ではこんな子どもたちが育つ！」という自園の特徴やこだわりを改めて見直し、そして発信していきましょう。モノづくりの世界で例えるならば、「マーケット・イン（市場のニーズに合わせる）」ではなく「プロダクト・アウト（自社の独自性・個性を発信する）」です。それが、子どもたちや保護者の幸せにつながっていくのではないのでしょうか。

来年度7月には、関東地区教員研修大会が埼玉県で行われます。関東地区の大勢の先生方をお迎えするべく準備を進めておりますので、来年夏は是非埼玉県へお越し下さい。

(全埼玉私立幼稚園連合会新制度委員長／さいたま市・ひなぎく幼稚園／浅沼宏之)

編集後記

令和7年の師走を迎えます。今年を振り返ってみると、大阪・関西万博の開催、女性首相の誕生、「2025年問題」に代表される労働力不足の深刻化、クマによる被害の増加など、社会の大きな変化と課題が次々と浮かび上がった一年でした。国内外で新しい時代の流れを感じる一方で、私たちが子どもたちにどのような未来を手渡していくのか、その責任の重さを改めて実感する年でもありました。幼稚園の現場では、教育のデジタル化や保育

環境の整備、また地域との連携強化など、日々の努力が積み重ねられています。子どもたちの笑顔や成長が、社会全体の希望の光であることを胸に、来る年も一歩ずつ進んでまいりましょう。12月12日には「今年の漢字[®]」が発表されます。どの一文字がこの激動の一年を象徴するのか、楽しみに待ちたいと思います。寒さ厳しき折、どうぞお健やかに新年をお迎えください。

(広報委員長 二宮一朗)

お詫び

先月発行の「私幼時報」2024年11月号「おたより」のページにつきまして、掲載内容に誤りがございました。

本来は表題で「北海道からのおたより」および「熊本からのおたより」と掲載すべきところ、誤って「三重からのおたより」・「長崎からのおたより」となってしまいました。

執筆いただいた先生をはじめ、関係者の皆様並びに読者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを、ここに深くお詫び申し上げます。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とカリキュラム

毎月2日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表